

相撲

池松 孝子

去年から今年にかけての大相撲安青錦あおにしきの活躍は目覚ましいものがある。相撲にさほど詳しくない私でも、その来日事情から、大相撲に入門するまでの経緯を知ることになった。

母国ウクライナでは、ロシアの侵攻で十八歳以上の男性は国外出国が認められないことから、相撲を続けられる環境を求めて来日。世界ジュニア相撲選手権で知り合った関西大学相撲部主将を頼っての来日だった。彼の人柄もあろうが監督の紹介によって大相撲の安治川部屋の研修生となったのが始まりだという。

レスリングの経験もある。あの腰の低い体勢で相手を起こしていく力はそういうことから身についたものだ。相撲を見るにつけ、人柄を知るにつけ、安青錦を応援しないではいけない。

相撲は、日本古来の神事、祭りを起源とする武芸、武道の一つだ。伝承としては神話時代から始まったと言われる。長い歴史の中で、最も盛んだったのは江戸時代である。武士から庶民まで娯楽として隆盛を極めた。

もともと神事に由来するため、現在でも礼儀、作法が厳しい。歴史的な成り立ちとしては、農作物の吉凶を占う、五穀豊穡を祈る、神の加護に感謝するなどであったろう。こうしたことから、他のスポーツとは違い、動作から衣装などに文化的なものが感じられる。相撲は「国技」と言われるが、法令や政令では「国技」を定めていない。その「相撲」という言葉は『古事記』が初出、垂仁すいにん天皇七年で柔道の起源とも重なっているようだ。奈良時代から平安時代にかけて「相撲すまひ節会せちえ」と言われる宮中行事があった。毎年七月、宮中で天覧相撲が行われた。

江戸時代には、江戸城でも上覧相撲が行われ、相撲ブームとなった。大関になると諸大名から録を支給され、二本差しも許され家来も与えられた。また、力士は錦絵にも描かれ、花柳界との浮名を流す人気力士もでた。「勸進相撲」は神社仏閣の建立、修理などの資金を集め、神事に奉納されるものだった。